

あわじ総合緑花プラン

つなげよう淡路の緑花

持続可能な緑花を目指して



兵庫県淡路県民局

>>>このプランの使い方<<<

◎このプランは、淡路地域において、緑花活動に携わる主体が、これからの10年間、どのような目標を持ち、目標を実現するためどのような基本方針で進めていくかを記した計画書です。

◎このプランは、この先10年を視野に入れて計画していますが、取り組む内容については、時代の要請や社会情勢等を踏まえて、その都度必要なメニューを選択し、実施していきます。

誰が	どのような使い方をするか？（例）
地域住民（緑花グループ・個人・企業など）	地域における緑花活動を実践する主体として、 ○今後の活動の方向性に迷ったときに ○活動メニューの参考として ○行政の支援内容を知りたい時に
緑花緑花関連機関（花博等の施設の管理者等）	緑花活動を専門的に実践・支援する主体として、 ○今後取り組みを行う際の指針・参考として ○地域の活動への支援内容の参考として
行政（県・市）	緑花活動を公的に支援する主体として、 ○緑花活動を行う際の指針として ○支援の内容を決める際のメニューリストとして

目次

はじめに	1
1 なぜこのプランを策定するのか?	1
2 どんなプランなのか?	3
(1) プランの位置付けは?	3
(2) プランの対象となる花・緑は?	3
(3) 誰が使うプランか?	5
(4) プランの期間は?	5
第1章 どのような取り組みが進んだか?	6
1 花回廊計画等で何に取り組んできたか?	6
(1) あわじ花回廊計画の取り組み	6
(2) 地域ビジョンによる取り組み	14
(3) 緑花関連機関・緑花グループによる取り組み	15
2 今後、淡路地域で緑花を進める際の課題	18
(1) 緑花活動を継続・発展させるためのしくみをつくること	19
(2) 「淡路らしい緑花」を探求すること	20
第2章 淡路ではどんな緑花を目指すのか?	23
1 プランの目標-人と自然の豊かな調和をめざす環境立島「公園島淡路」-	23
2 目標を実現するためどのように取り組みを進めるか?	27
第3章 どんなことに取り組むか?	30
1 淡路らしい緑花の取り組みの推進	31
(1) 人と自然のつながり	31
① 淡路に自生する植物・地域産材を用いて手間がかからず変化のある淡路らしい花壇 づくり	31
② 自然体験を通じて子どもを育てる	33
③ 環境に配慮した資源循環型緑花の推進	34
④ 緑花活動を環境保全・地域保全につなげる	35
⑤ 緑花活動を景観づくりにつなげる	38
(2) 人と人のつながり	39
① 人手不足を解消するため人材をつなげる	39
② 緑花で全島をつなげる場づくり	41
③ 緑花の癒し効果を活用し、人と人との交流を深める	42

④ 淡路から全国へ～淡路らしい緑花の発信～	43
⑤ 緑花以外の楽しい取り組みを考える	45
(3) 人との・わざのつながり	46
① 循環型の緑花を目指す	46
② 活動資金・資材を確保する	48
③ 淡路の緑花匠のわざを継承する	50
2 継続的な緑花の推進のしくみづくり	52
(1) 推進体制づくり	53
① 緑花活動に携わる者の話合いの場「あわじ総合緑花プラン推進会議」の開催	53
② 緑花団体の体制強化	55
(2) 「あわじ総合緑花プラン」の進捗管理のしくみづくり	57
参考資料	59
参考1 あわじ花回廊構想について	59
参考2 あわじ花回廊ルート	60
参考3 あわじ花回廊計画の検証作業とその結果	61
参考4 県の花緑に関する施策・事業（平成17年度）	94
参考5 用語説明	97
参考6 策定経過（策定経過、委員名簿等）	101

はじめに

1 なぜこのプランを策定するのか？

淡路地域では、緑花活動を通じて自分達のまちの風景を美しくすることで淡路を訪れた人をもてなしたい、子どもたちに美しいまちを残したいといった動機から、早くから「花」に着目し、緑花活動に取り組んできましたが、「あわじ花回廊構想」に基づく「あわじ花回廊計画」が策定され、行政が中心となって、「淡路花博」の開催や「あわじ花さじき」、「夢舞台」など花の拠点施設の整備を行い、沿道緑花を進めるとともに、市町では多数の緑花グループが生まれるなど、淡路島の緑花の基盤となる様々な成果がもたらされました。

その間、阪神・淡路大震災の経験から、地域住民がまちづくりに関わる場面が増え、行政計画であった「総合計画」は「地域ビジョン」として、多くの地域住民の「参画と協働」により策定され推進されています。淡路地域においても、地域ビジョンが策定され「花と緑あふれる淡路島をつくる」という目的のもと、様々な行動プログラムが地域住民の参画と協働により推進されています。

特に、淡路地域では「花回廊構想」の考え方を強く受け、緑花活動を淡路の地域づくりを支える取り組みとして位置づけ、緑花を通じて「公園島淡路」を目指すという考え方が全島的に認識されつつあります。特に近年、環境に配慮した緑花の取り組みとして「菜の花エコプロジェクト」などは一定の成果をあげています。

その一方で「花回廊計画」から 10 年が経過し、新たな時代を迎え、淡路の緑花はセカンドステージに突入しています。

具体的には、緑花の質について「淡路の花壇は画一的」という意見や、高齢化による人手不足、資材費の捻出など緑花活動の継続についての問題が起こっています。社会潮流に目を向けると、計画策定当時にはなかった「環境、生物の多様性」、「教育・学習」といった視点が重視されるようになり、市町合併など緑花の取り組みの体制においても見直しが欠かせなくなってきました。また、平成 16 年の台風 23 号等の災害などの経験から福祉や防災への意識の高まりや、新たに創設された県民緑税を有効活用したまちかど緑花等の取り組みの推進も求められています。

このため、これからの淡路の緑花は、緑花グループが持続した活動を行うために、様々な主体が連携して取り組み、緑花活動を継続・充実させていくための新たな視点からのソフト事業やしくみの充実を図ることが求められおり、その中で行政は緑花活動のバックアップに重点を移していくことが必要となっています。

については、地域住民がプランの作成主体であり、推進主体でもあるということを念頭におき、決められたプログラムに基づき取り組むのではなく、各主体が自ら出来る範囲で取り組みを選び推進していけるように、今後 10 年間の緑花活動の目指すべき姿と推進方策を示した「あわじ総合緑花プラン」を地域住民の参画と協働のもとに策定し、自慢できるふるさと“環境立島公園島淡路”の実現を図ります。

「あわじ花回廊計画」策定

花や緑を巡る社会潮流

① みどりを守り育てる制度

の充実

都市緑地保全法の改正、景観・緑三法 等

② 循環型社会の形成、生物多

様性の保全が緊急課題に

京都議定書、新・生物多様性国家戦略、自然再生法、外来生物法 等

③ 新しい「公」の領域の出現な

ど社会システムの大きな変化

行財政改革、地方分権、市町村合併、NPO活動の活発化と新しい「公」の領域の出現

④ 人口減少社会の到来とゆと

りあるライフスタイルの実現

人口減少に伴うゆとりある生活の実現、農山村地域の疲弊・衰退

花や緑を巡る淡路地域と全県の主な動き

(平成7年 阪神・淡路大震災 発生)

平成10年 明石海峡大橋の開通

平成11年 県立淡路景観園芸学校の開校

平成12年 「淡路公園島憲章」制定

淡路花博「ジャパンフローラ2000」の開催

平成13年 21世紀兵庫長期ビジョン・地域ビジョンの策定

平成14年 地域ビジョン推進プログラムの策定

「県民の参画と協働の推進に関する条例」の公布
花いっぱいモデル事業の実施（～18年）

平成15年 「全県花いっぱい推進プラン」の策定

「淡路の魅力再発見～風土資産を活用した淡路の活性化方策～」のとりまとめ

平成16年 台風23号による災害発生

「ひょうご花と緑の懇話会報告」の策定

平成17年 行政合併（南あわじ市、淡路市、洲本市発足）

花と緑あふれる美しい県土づくりアクションプログラム～オンリー1「ふるさとの顔」づくり事業～策定

県民緑税の創設

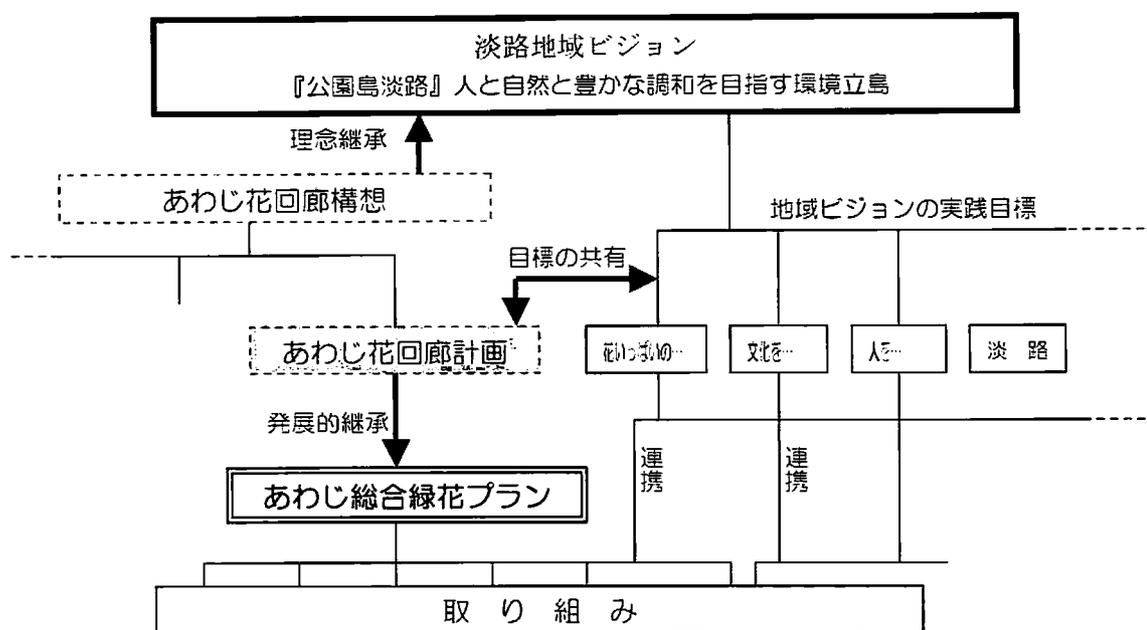
平成17年度「あわじ総合緑花プラン」策定

2 どんなプランなのか？

(1) プランの位置付けは？

このプランは、「花」に着目した「花と緑のまちづくり」の観点からの地域づくりを推進する「あわじ花回廊構想」に基づいて策定された「あわじ花回廊計画」を継承する淡路の緑花に関する次期計画として位置づけられ、今後 10 年間の淡路地域における緑花の方向性・取り組みの方策を示したものです。

淡路地域のあるべき姿である「淡路地域ビジョン」とは、緑花やまちづくりの分野で連携して取り組みを進めていきます。

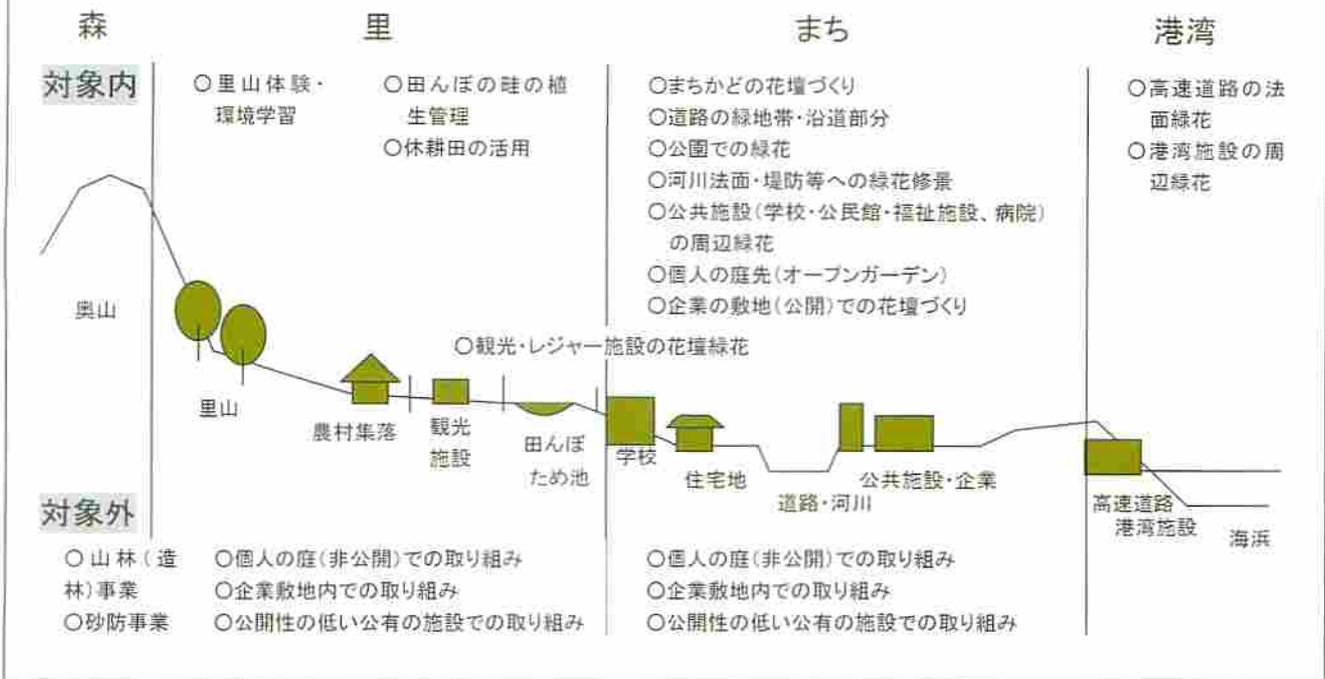


(2) プランの対象となる花・緑は？

このプランでは、土地や施設の所有形態を問わず、公開性の高い（目につきやすい、アクセスしやすい、多くの人々が利用する）場所、すなわち“中間領域”^{*}における緑花活動を対象とします。

したがって、公園、公共施設の花壇及び道路の緑地帯など、花や緑の植栽活動の中心となる公共スペースを基本に、個人の所有ではあるが公開している庭や休耕田、身近にふれあえる里山林、観光・レジャー施設の花壇なども対象とします。 ^{*}次ページ参照

■緑花プランの対象となる場所と緑花活動のイメージ

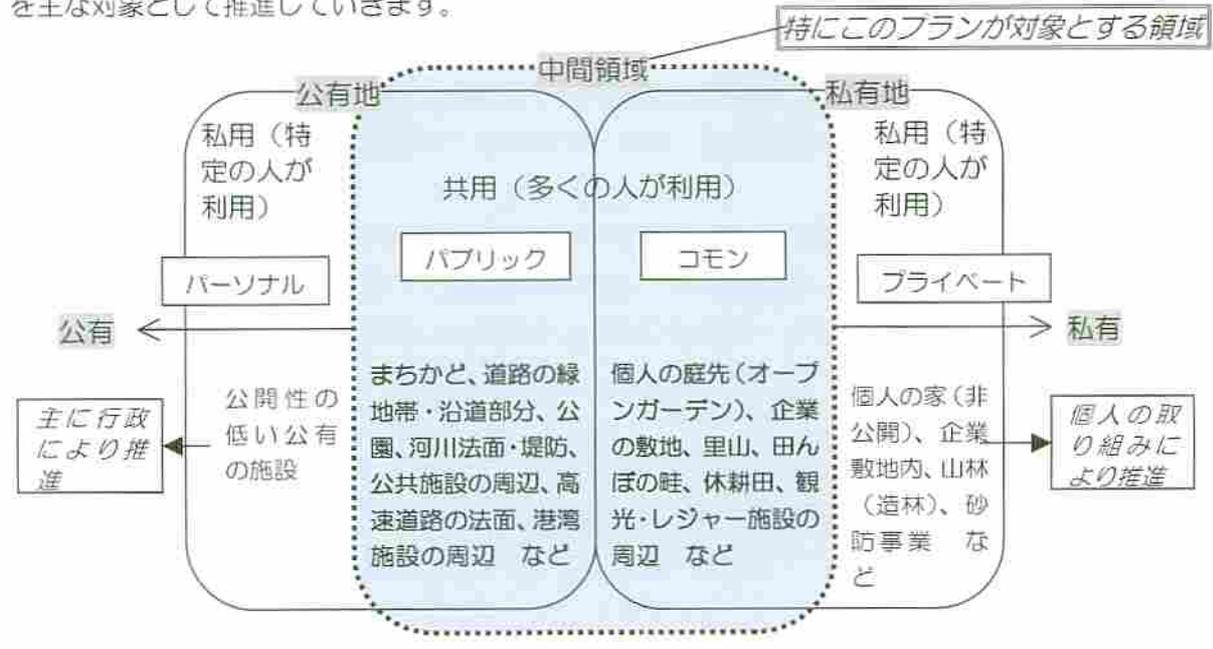


■このプランが対象とする「中間領域の緑花活動」って？

かつて、地域には井戸など共通で利用し管理するスペースがありました。このような場所に人々は集い、言葉を交わし、コミュニティが形成される場となっていました。このため、一定のルールのもと地域により管理され、大切に利用されてきました。

現在、住民主体の地域づくりが進められるなかで、公開性が高く多くの人々が利用する場所においては、公有・私有という土地の所有形態に限定されず、地域住民、行政などの様々な主体の参画と協働により管理・活用されるケースが増えつつあり、「中間領域」と位置づけられています。

このプランでは、「中間領域」における緑花活動を着実に行うことが今後の淡路地域での緑花活動の発展につながるとし、個人・行政による各々の取り組みはもとより、この「中間領域」の緑花活動を主な対象として推進していきます。



(3) 誰が使うプランか？

このプランは緑花活動を行う緑花グループ・企業などの地域住民、緑花施設管理者などの緑花関連機関、県・市町の行政が、今後 10 年間の緑花の目標を共有し、どのような活動を行っていくかの指針となるプランです。

誰が	どんな使い方をするか？（例）
地域住民（緑花グループ・個人・企業など）	地域における緑花活動を実践する主体として、 ○今後の活動の方向性に迷ったときに ○活動メニューの参考として ○行政の支援内容を知りたい時に
緑花関連機関（花博等の施設の管理者等）	緑花活動を専門的に実践・支援する主体として、 ○今後取り組みを行う際の指針・参考として ○地域の活動への支援内容の参考として
行政（県・市）	緑花活動を公的に支援する主体として、 ○緑花活動を行う際の指針として ○支援の内容を決める際のメニューリストとして

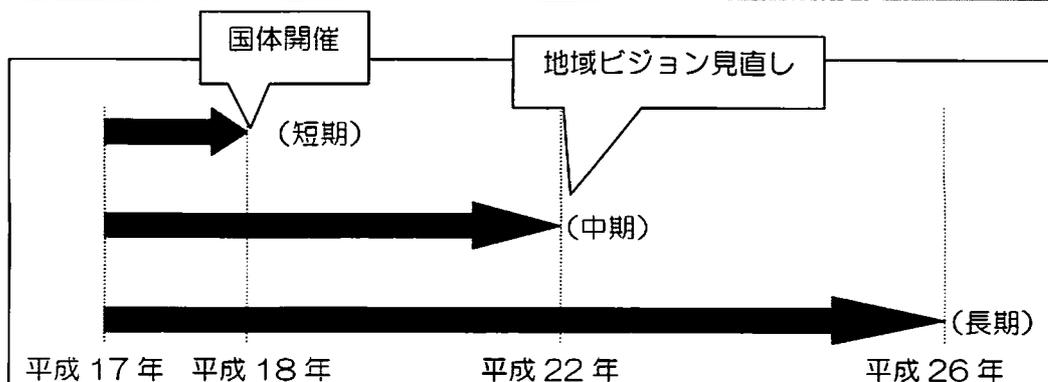
(4) プランの期間は？

このプランの期間は、平成 17 年（2005 年）度から平成 26 年（2014 年）度までの概ね 10 カ年とします。

短期から中期にかけては、すでに取り組みられているものをさらに推進する期間です。半分を過ぎた中期頃に地域ビジョンの見直し時期と同時にプランの達成度合いを点検し、必要な場合は時点修正を加えます。長期は緑花活動から広がる様々な効果を期待した取り組みを進める時期にあたります。

また、社会情勢の変化や淡路地域ビジョンを始めとする他の計画との整合を保つため、必要に応じ随時内容を見直していきます。

- ◇短期：平成 18 年度までの概ね 2 年間
- ◇中期：平成 22 年度までの概ね 6 年間
- ◇長期：平成 26 年度までの概ね 10 年間



第1章 どのような取り組みが進んだか？

1 花回廊計画等で何に取り組んできたか？

淡路地域では、この10年間、花回廊構想に基づく花回廊計画が推進されてきました。淡路花博の開催や県立淡路景観園芸学校の開校などに加え、従来の行政計画である総合計画から参画と協働による「地域ビジョン」も策定され推進されています。さらに、花回廊計画を中心に、多数の緑花に関わる緑花関連機関、団体・住民グループが生まれ、緑花活動に取り組んでいます。

(1) あわじ花回廊計画の取り組み

<あわじ花回廊計画とは？>

あわじ花回廊計画は“「花」を通じた新しいライフスタイルの創造”を基本理念とし、ライフスタイル、経済活動、生活環境やそれを取り巻く自然を足元から見直すと共に、震災からの着実な復興を図りつつ、21世紀の新しい淡路の姿を方向づけたものでした。

この計画を策定以降、緑花アクションプログラムに位置づけられた年次計画に基づき、主に行政が中心となりハード事業やソフト事業等様々な緑花事業が進められてきました。ハード事業については、道路緑花や拠点緑花、まちかど緑花、周遊ルートの指定が行われ、ソフト事業では、淡路花博の開催などのイベント開催を始め、グループなどへの支援・助成、花回廊構想の普及啓発、人づくり、情報発信・PR、緑花関連機関や緑花グループなどの推進体制組織づくりが進められてきました。

<あわじ花回廊計画の成果>

花さじきなどの花拠点施設や主要道路沿い、海・陸の玄関口の緑花などのハード事業の推進及び淡路花博の開催などにより、観光客等に対し、淡路地域が「花いっぱい」の島というイメージを向上させました。

また、ソフト事業の推進により、緑花グループの増加や地域の緑花意識を高めるきっかけをつくったなど多くの成果を残しました。

<あわじ花回廊計画の問題点>

ハード面では、多数の花壇を整備したために維持管理が行き届かない、花壇の質について「淡路らしさが弱い」「デザインが画一的である」という指摘があり、今後花壇の質について考えていく必要があります。

またソフト面では、花博以降のコンテストやイベント等の内容や参加者の固定が見られたり、緑花グループの支援のあり方についても、資材等の直接的な支援が多く、グループを生み出す“きっかけ”としては成功しましたが、後の自立を促すものではないとの指摘もあり、これからの緑花活動の継続が問題となっています。

■花回廊計画で取り組みがどう進んだか？—花回廊計画の検証（ハード事業）—

①道路緑花（主に行政・緑花グループが取り組む内容）

海・陸の玄関口の緑花

【淡路島来訪者への第一印象の演出の緑花】

(対象)

- ・ 洲本港（プランター19基、100㎡）、津名港（970㎡）、岩屋港（70㎡）、交流の翼港（プランター31基、580㎡）等
- ・ 神戸淡路鳴門自動車道 SA・IC 出入口付近等（29750㎡）等

(取り組みの状況)

- ・ 交通機関のターミナルや幹線道路沿道は、来島者が最初に目にする玄関口であることから、花壇や植栽帯を整備することにより、花いっぱい美しいまちを印象づけた。しかし、一年草が主となる植栽が多く、管理の頻度が高い状況にある。
- ・ 岩屋港等では、地元小学校やPTAなどによる花飾りが行われており、地域の関わりも増えつつある。



津名港ターミナル(淡路市)



道路空間・沿道空間の緑花

【道路空間・沿道空間での新たな花の景観の創出】

(対象)

- ・ 国道 28 号東浦地区（延長=2.7km、28,400㎡）
- " 洲本バイパス（延長=3.2km、5,100㎡） 等
- ・ 県道 野島～岩屋（延長=5.7km）
- 五色三原線（延長=1.6km） 等

(取り組みの状況)

- ・ 道路や施設周辺を含めた沿道景観に花を添え、効果的な緑花の拡大を図ることができたが、花壇の規模が大きいことや、手間がかかる一年草を中心とした緑花、人目につきにくい道路までも植栽しているなど、管理面での負担が大きい状況にある。
- ・ 全県花いっぱいモデル事業、国のボランティアサポートプログラムなどを利用し、地域の緑花グループが道路緑花に取り組んでいるケースがあり、全体の中で箇所数は少ないが、一点突破的にまちの景観を彩り良くしている。

	 <p>国道 28 号沿いの緑花</p>	 <p>県道なほ仁井吉島線沿路</p>
	 <p>ハーベナあわじの花壇(淡路市)</p>	 <p>大磯・楠本花サークル会(淡路市)</p>

②拠点緑花（主に緑花関連機関が取り組む内容）

<p>全島レベルの花拠点施設の緑花</p> <p>【花の島淡路のイメージアップや観光資源づくりに貢献する施設緑花】</p>	<p>(対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・淡路夢舞台（12.3ha、緑花面積8ha）県立淡路島公園（148.8ha）あわじ花さじき（16ha）、県立淡路景観園芸学校（13ha） ・国営明石海峡公園・淡路地区（96.1ha）等 		
	<p>(取り組みの状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花さじきや百段苑などの複数の大規模な花拠点施設の整備により花の観光資源が増加し、花の島淡路のイメージの向上とともに、先導的な緑花修景施設として地域の緑花意識を高めてきた。 ・しかし、緑花の質については、原色系の花を用いた花壇が多く、さらに大規模であることから維持管理費等管理面での負担が大きい。 		
	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="577 1311 896 1555">  <p>あわじ花さじき(淡路市)</p> </td> <td data-bbox="938 1311 1257 1555">  <p>夢舞台の百段苑(淡路市)</p> </td> </tr> </table>	 <p>あわじ花さじき(淡路市)</p>	 <p>夢舞台の百段苑(淡路市)</p>
 <p>あわじ花さじき(淡路市)</p>	 <p>夢舞台の百段苑(淡路市)</p>		
	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="577 1603 896 1847">  <p>おのころ愛ランドのインガ'リクカガ'-デン(淡路市)</p> </td> <td data-bbox="938 1603 1257 1847">  <p>県立淡路香りの公園(淡路市)</p> </td> </tr> </table>	 <p>おのころ愛ランドのインガ'リクカガ'-デン(淡路市)</p>	 <p>県立淡路香りの公園(淡路市)</p>
 <p>おのころ愛ランドのインガ'リクカガ'-デン(淡路市)</p>	 <p>県立淡路香りの公園(淡路市)</p>		

<p>花風景スポット施設の緑花 【補完的な修景緑花ポイント】</p>	<p>(対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花そのものを目的としないホテルや美術館、海水浴場等の観光・レクリエーション施設・文化施設等 ・地元の花の名所、緑花グループの活動拠点 <p>(取り組みの状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花そのものを目的としない観光施設でも、花回廊計画に基づき、施設敷地内の花壇づくりに力を入れて花のイメージアップに貢献してきた。量的には小さいことから単体では淡路全体のイメージアップにはつながっていないが、「花へんろ」などソフト事業とともに打ち出すことで緑花の効果を高めている。緑花の質的には、一年草を主とした花壇のほか、低木ツツジ等を利用した花壇も見られる。 ・地元の公園や神社仏閣などは、桜や梅、あじさいなどの名所であり、とりたてて花壇を整備しているわけではないが、既存の樹木等の管理を継続することで、地域では親しまれている存在になっている。 ・旧緑町のみどりの花時計など地域の緑花グループの利用拠点としても活用されている花壇がある。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>浅野公園の桜(淡路市)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>旧緑町役場前のみどりの花時計 21(南あわじ市)</p> </div> </div>
<p>公共施設の緑花</p>	<p>(対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> 庁舎、公民館・集会所、学校、病院等 ・旧緑町役場前花壇 (200 m²) ・洲本図書館 (2000 m²) など <p>(取り組みの状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いずれも花回廊計画を意識しながら、施設内に積極的に花壇を設置するなど緑花が進められ、地域のコミュニティシンボルとなっている。しかし、一部は維持管理が十分に行き届いておらず、荒れた花壇も見られる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>洲本図書館(洲本市)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>県立淡路高校(淡路市)</p> </div> </div>

③まちかど緑花（主に緑花グループが取り組む内容）	
まちかど空間の緑花 拡大・強化	<p>(対象) 空き地、耕作地、畦畔、民間戸建・集合住宅、企業用地等</p> <p>(取り組みの状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政による緑花グループへの活動支援により、緑花領域の拡大が図られたが、それぞれ人手や資金不足等により活動の継続が困難な状況にある。 ・休耕田を活用した景観植物の植栽、企業用地での花壇づくりなどが進みつつある。 ・北部地域の農地の活用が課題になっている中で、景観植物を植栽して観光客を呼んだり、自然産業特区（市民農園、企業参入）などが実施されている。 ・民間戸建てや集合住宅では、地域の花の名所づくりとして、オープンガーデンが開催され、緑花グループや地域住民と来訪者等との交流が進んでいる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>休耕田の活用 (淡路市)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>オープンガーデンに取り組むガーデナー</p> </div> </div>
④周遊ルート（主に行政が取り組む内容）	
周遊ルート	<p>(対象) 花の周遊ルート（基幹コース、補完コース）</p> <p>(取り組みの状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路緑花・拠点緑花・まちかど緑花の相互の連携と景観資源や施設を効率的に巡ることができる周遊ルートの設定に基づき、ルート上の沿道緑花が進められた。しかし、情報発信の薄さからルートの認知度が低い状況にある。

■花回廊計画で取り組みがどう進んだか？－花回廊計画の検証（ソフト事業）－

①支援助成の仕組み	
<ul style="list-style-type: none"> ・緑花資材の配布 ・淡路緑花銀行 ・まちづくりプラン作成 ・地域コミュニティによる緑の保全・創出システム事業 <p>等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政による積極的な緑花資材等の配布により、花壇等の量は増加している。「緑花銀行」は、取り組んだ後の種の収集が進まないなど緑花資材を循環させるという目的には至っていない。 ・緑花資材の配布については、行政からの配布だけでなく、地域の中核的な団体が独自に花苗を育苗し配布（有償・無償）する、あるいは地元企業による肥料の配布などの活動が実施されている。 ・まちづくりプランについては、各学校区でまちについてどのような問題があるのかを発見する機会となった。しかし、協力者が少なく、カルテに基づき計画を策定したが動いていない。 ・「さわやかみどり創造プラン」の取組みの中で、「地域コミュニティによる緑の保全・創出システム事業」を実施。その中で中学校単位で緑花グループ等の地域住民によるワークショップを開催し、「わがまち緑のマップ」及び「緑のカルテ」を作成したが、具体的な行動計画までは策定できていない。
②啓発普及	
<ul style="list-style-type: none"> ・淡路緑花推進交流会 ・パンフレット等の配布 ・県民フォーラムの開催 ・コミュニケーション誌の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・淡路緑花推進交流会は定期的で開催されているが、実質的には花壇コンテストになっている。また、その場を通じて情報の交換などが行われているが、参加者の固定化がみられる。 ・県民フォーラムは毎年開催してきており、事業紹介や緑花団体の活動報告等の情報発信が行われたが、団体同士の積極的な交流には到っていない。参加者は固定、減少している。 ・パンフレット等の配布、コミュニケーション誌の発行については「花とみどり」などが作成されている。
③人づくり	
<ul style="list-style-type: none"> ・花づくり人材育成講習会の開催 ・緑花コンテストの充実 ・緑花マニュアルの作成講習会の見直し ・モデル花壇、モデル庭園の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会は年間に十数回開催し、緑花技術の向上に一役買っている。 ・コンテストは県および緑花関連機関・NPOが規模に応じて開催しており、緑花活動の動機づけにはなっているが、参加者の固定化、減少がみられる。 ・マニュアルは配布されたが、緑花グループ全体には広まっていない。 ・モデル花壇は市町ごとに取り組まれ、続いている所もあり一定の効果を上げているといえる。
④情報発信PR	
<ul style="list-style-type: none"> ・ジャパンフローラ 2000への参加発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャパンフローラに緑花グループが発表、展示を行った。その後、観光、地域振興につなげるためのイベントが開催され、花の島とし

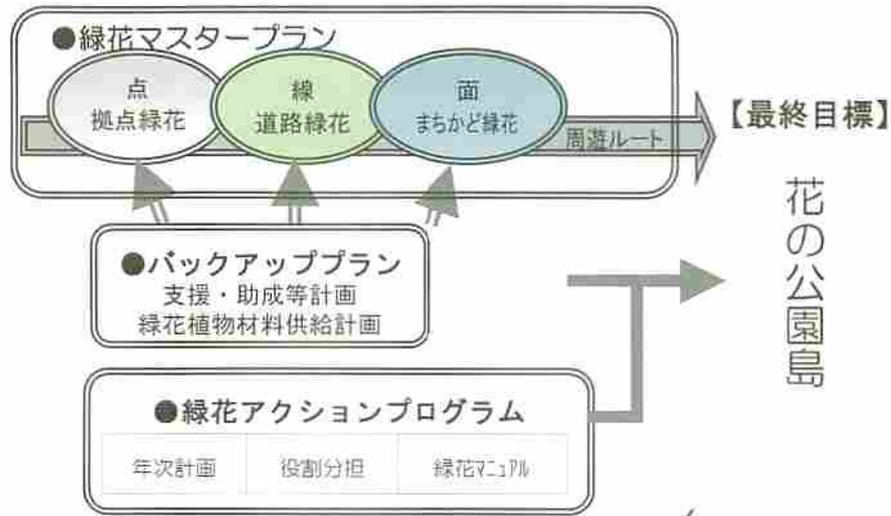
<ul style="list-style-type: none"> ・花の名所選定 ・継続的なイベント創出 	<p>てのイメージアップに貢献した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光連盟などによる全国向けの情報紙への掲載、ホームページの開設など、全国へ「花の島淡路」のイメージ定着が図られた。しかし、緑花グループからの情報の収集や更新方法に工夫の余地がある。 ・くにうみツーリズム特区として観光産業の活性化に向けて取り組みが行われている。
<p>⑤推進体制組織</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・緑花グループ拡大市町単位の緑花協会設立 ・花回廊構想推進組織の設置 ・快運マップ運動の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・花回廊当時と比較し、緑花グループの活動は盛んになっている。しかし、グループの継続した取り組みが難しい状態である。 ・各町単位で中核的な役割を担う組織（緑花団体）が設立する等、支援のための体制が整ってきたが、市町合併により今後の組織のあり方が問題となっている。 ・花回廊構想推進組織として協議会が設置され、毎年1回開催され報告が行われているが、緑花グループの参加がなく、島内の情報交換までは至っていない。

■「あわじ花回廊計画」の概要

あわじ花回廊計画は“「花」を通じた新しいライフスタイルの創造”を基本理念とし、21世紀の新しい淡路の姿を方向づけたものです。

この計画は、最終目標である「花の公園島」を実現し、“花と緑のまちづくり”を実践するために、緑花マスタープラン、バックアッププラン、緑花アクションプログラムにより構成されています。

緑花マスタープランでは、淡路島内に花の拠点を巡るルートを設定し、それを回廊させるために花の拠点施設を整備してきました。



(2) 地域ビジョンによる取り組み

花回廊計画策定以降、全県では「地域ビジョン」による取り組みも行われてきました。「地域ビジョン」は、従来の総合計画等のように行政主導型ではなく、参画と協働により様々な主体が作成・推進していきます。ビジョンの実現のため、県民が主体となり行動する「県民行動プログラム」と、行政の支援方策である「行政推進プログラム」が作成されています。

淡路地域ビジョンでは、環境立島「公園島淡路」を目標として、6つの柱となる実践目標を定め、行動指針、さらに具体的な提案を示しています。実践目標の柱の一つに『花いっぱい美しいまち』が掲げられているのは淡路地域の特徴であると言えます。実践目標を実現していくため、健康・福祉、県民・環境、教育・文化、産業雇用、農林水産、社会基盤の6つの分科会が活動を進め、進捗状況は「くにうみ夢フォーラム（淡路地域夢会議）」で報告されています。

緑花に関する取り組みは、一例をとってみると社会基盤分科会では「花づくりマップ」の作成、県民・環境分科会では「花づくり・まちづくり交流」「あわじ菜の花エコプロジェクト」などが行われています。

こうした取り組みは、花回廊計画と相乗効果を上げ、拠点施設等への緑花を促進し、緑花グループによる花づくり活動を活発にしています。

■淡路地域ビジョンの体系



■地域ビジョンにおける花緑の取り組み

分科会	プログラム名	取り組み
県民・環境分科会	○花づくり・まちづくりの交流	・NPO あわじ緑花協会による講習会の開催 ・花と緑のコンクール開催 など
	○あわじ菜の花エコプロジェクト	・洲本市（旧五色町）・淡路市（旧東浦町）で廃食用油を回収し、軽油代替燃料を精製 ・プロジェクトの普及啓発
社会基盤分科会	○あわじのマップづくり	・花づくりと風土のマップ作成